



Michigan Newsletter

June 2025

No. 9
ミシガン州経済交流駐在員

経済交流

1. 映画館「ミシガンシアター」での滋賀 PR !

ページ 1

草の根交流

1. ミシガン州立大学連合日本センター留学予定者に奨学金授与
2. バーミングハム市コミュニティセンター日本月間

ページ 2~3

ミシガントピック

1. ミシガン・リコネクトの課題、現状を語る

ページ 4~6

経済交流

1. 映画館「ミシガンシアター」での滋賀 PR !



6月15日から21日の一週間、ミシガン大学日本研究センター(CJS)主催の日本文化発信イベントである「アナーバー ジャパンウィーク」が彦根市の姉妹都市であるアナーバーの市内各地で開かれ、様々な日本文化関連イベントが行われました。

開催初日となる16日、市中心部にある映画館「ミシガンシアター」で日本映画の上映イベントが行われました。会場に滋賀県ブースを設置し、近江の茶の水出しの試飲、観光プロモーションを行いました。アナーバー彦根姉妹都市委員会メンバー3名にも協力してもらい、映画上映前に立ち寄った方に、映像やパンフレットで滋賀県を紹介しました。映画上映前に、ステージにて滋賀県との姉妹県州や、彦根市との姉妹都市関係についてスピーチする機会も頂きました。

アナーバーの市街地を歩いていると、道行く人たちが日本の話をしているのをよく耳にします。これは他の街ではあまりなく、こういった日本関連のイベントがファンを生んでいること、ミシガン大学もあり学生たちの関心が高いこと、毎日日本への直行便が就航しているデトロイトからも近いこと等の要素があるのでは、と考えています。



草の根交流

1. ミシガン州立大学連合日本センター留学予定者に奨学金授与

JBSD(デトロイト日本商工会)基金からの奨学金授与式に来賓として出席しました。奨学金を得て 2025 年秋学期からミシガン州立大学連合日本センター(JCMU)のプログラムに参加する学生3名およびその家族、また、2024 年から 2025 年のプログラムに参加した学生 2 名が招かれました。

冒頭、JBSD 基金の森津会長の挨拶では、1997 年から 210 名の学生に奨学金を授与していることに触れられ、学生が日米の懸け橋となっていること、また、学生を支える家族の多文化への理解に感謝が伝えられました。デトロイト総領事館の山根首席領事からは、奨学金は単なるお金ではなく、人生を変えるもので、ミシガンと滋賀はすでに友情が築かれているが、努力あってのことで、さらに友情を深めていく余地がある、と温かい言葉を頂きました。

奨学金を受け取る生徒からは、「子どものころからの夢だった日本への留学で、やりたいことがたくさんあり、この希望を与えてくれた基金に感謝する。」「単に語学の勉強のためだけでなく、人生の目的や希望を探しに行きたい。」、などJBSD基金への感謝や抱負が述べられました。

また、今年 4 月まで奨学金を得て JCMU プログラムに参加した学生2名からは、「日本から帰ってから日本とのつながりを考え続けており、今も勉強を続けている。」「この奨学金をもらえたということが自信をくれた。」「日本人の、滋賀の人たちのホスピタリティーが忘れられず、残りの人生でもずっと大切にしていきたい思い出ができた。」といった感想と合わせて、「いつもバリアになるのは自分自身。失敗や間違いを恐れず、日本の人たちと関係を築いてほしい。」といったこれから日本へ行く学生へのエールも送られました。

こちらに来てからJCMUに留学した学生に会う機会は多いのですが、会話の中で少し感想を聞いたりする程度で、今回のようにスピーチの形でじっくり聞くのは初めてでした。彼らの感じたこと経験したことを深く知ることができ、JCMUの価値を感じる瞬間でした。また、私がミシガンに来て感じている、ミシガンの人たちの温かいもてなしの心と全く同じものを、滋賀県に行ったミシガンの学生たちが感じているのがとてもうれしかったです。



日本からちょうど出張中で出席されていた JCMU のマクラケン所長が、式典後、「奨学金を得て日本に、滋賀県に来るチャンスを得た彼らもラッキーだが、なにより、彼らを受け入れることができる自分たち、滋賀県がラッキー。」、とつぶやいておられ、私も本当にその通りだと思いました。

2. バーミングハム市コミュニティーセンター日本月間

栗東市と姉妹都市のバーミングハム市には、50 歳以上の住民を対象に、幅広い生涯学習プログラム、アートクラス、フィットネスクラス、様々な交流の機会を提供しているコミュニティーセンターがあります。提供されているプログラムやアクティビティは、多い日で一日に 15 クラス以上！一つの国や地域を取り上げ、世界の地域とコミュニティをつなぐ文化シリーズも年間を通じて実施されており、5 月から 8 月の日本月間のプログラムの一つとして、姉妹県州および姉妹都市の紹介をさせてもらうことになりました。



夕方 6 時からの開催にもかかわらず、バーミングハム市内外から 30 名以上の方が集まってくださいました。参加者の多くは日本月間の他のプログラムも聴講されており、日本の文化や歴史に高い関心があり、プレゼンテーション前から、日本に行ったことがある、武道を習ったことがある、着物を着てみたい、日本語を学びたいがどれくらい時間がかかるか、などたくさんの方が話しかけてくださいました。市内には、現在の「デトロイトりんご会補習授業校」(日本からの駐在員及びデトロイト在住日本人の子供たちに、土曜日に日本語教育を実施する学校)が 2010 年までであったことから、日本人駐在員や日本企業を身近に感じている人が多いのも特徴でした。

栗東市バーミングハム市は活発な交流を行ってきましたが、パンデミック後初めて、6 年ぶりに滋賀県からミシガン州に友好親善使節団が訪問した際、栗東市から参加の一名について、バーミングハム市内でホストファミリーが見つからなかったという背景があり、ホストファミリーや使節団員等の活動の担い手を開拓するためにも、姉妹県州、姉妹都市活動の歴史やこれまでの交流を写真や動画を交えて紹介しました。栗東市からも多数の写真を提供してもらい、プレゼンにも熱が入りました。

10 名を超える参加者から活発な意見や質問をもらいました。中には、過去、栗東市から使節団を受け入れていた時のことを知る人もおり、「元市議会議員をしていたが、2010 年ごろ、毎年栗東市から 10 人ほどの団を受け入れており、活発な活動を行っていた。友好親善使節団は大変すばらしいプログラムだった。」とのコメント



↑日本月間でセンターの中にも日本のものが多数展示。

や、栗東市から提供された白黒の写真を見て、「これはあの時の市長でないか、市役所でないか。」と参加者同士での会話も弾んでいました。姉妹都市そのものや、過去の学生交流に興味を持ってくださった方もいました。

どの姉妹都市でもメンバーの高齢化が進んでおり、若いメンバーの獲得が課題になっているものの、若い世代は仕事や家庭で忙しいことも多く、今回のような 50 代以上の人たちの中には、仕事等も落ち着き自分の時間を存分に楽しんでおられ、かつ好奇心旺盛で、新しいことを学び、人とつながることに喜びを感じる人たちが大勢いることがわかりました。こういったコミュニティーセンターは他の市にもあるはずで、こういった場所に出向き、これまでアプローチしていない層の市民をターゲットするのも、今後重要ではないかと思われます。

ミシガンピック

1 ミシガン・リコネクトの課題、現状を探る

前回のニュースレターで、「ミシガン・リコネクト」(地元のコミュニティカレッジにて、25 歳以上の人なら誰でも、授業料無料で準学士号または技能証明書を取得できる超党派プログラム)の実施機関である MiLEP(ミシガン州生涯教育・能力開発局)や、高等教育の施策の全体像をお伝えしました。

ホイットマー州知事が新しい機関を設置し開始した「ミシガン・リコネクト」ですが、2021 年 2 月の導入から 4 年が経過しています。今回は、どのような課題や現状があるのかを見ていきます。

(1) 男女格差

2 月のホイットマー州知事の施政方針演説の中でも、「ミシガン・リコネクト」への登録は、女性と男性が 2 対 1 となっており、若い男性をより巻き込んでいくための努力が必要との言及がありました。ホイットマー州知事は事態を重く受け止めており、4 月、より多くの若い男性が高等教育や熟練職業訓練を受けるよう促すための行政命令に署名しています。

「ミシガン・リコネクト」参加者の 65%が女性であると報告されており、高等教育に関するあらゆる指標において、女性が男性を上回っています。ちなみに、高等教育における男女格差の拡大は、ミシガン州に限ったものでなく、2023 年の国勢調査データを分析したところ、全米の大学生の 44%が男性で、2011 年の 47%から減少しています。専門家によると、男性は大学進学よりも就職を選ぶ傾向があるそうです。

この男女格差を解消するため、コミュニティカレッジで様々な取り組みが行われています。その一つとして、サウスウェスタン・ミシガン・カレッジでは、バス釣りチームまたは e スポーツチームへの参加を希望する新入生に奨学金を提供しています。一見関係ないように思えますが、こうしたクラブ活動の実施は、入学に関心のなかった学生の興味を引き、さらに入学後の定着率向上に非常に役立つそうです。特に、e スポーツは IT 系学生へのアプローチ戦略と言えます。IT 業界では高校卒業資格以上の学歴や資格が求められているため、彼らの入学は雇用主にとってもプラスになります。このコミュニティカレッジでは、もちろん e スポーツや釣りをするだけでなく、目指す資格を確実に取得できるよう支援しているそうです。

ちなみに、昨年の秋学期時点で、バス釣りチームの学生の成績の平均点は一般学生の平均を上回っていたそうです！

(2) 大学進学率から見た効果

「ミシガン・リコネクト」では、技能証明書または大学の学位を持つ労働年齢の成人の数を、現在の 約 52% から 2030 年までに 60% に増やすことを目標としており、4年前から着々と目標に近づいています。

一方、4 年制の大学を含めた大学進学率を見てみると、ミシガン州の高校卒業生の大学進学率は、州から巨額の予算が投入され、ほとんどの州の授業料が大幅に削減されたにもかかわらず、パンデミック以降ほとんど変わっていません。2024 年度入学者の 53.4%が大学に進学しており、これは 2019 年度の 62.2%、2020 年度の 54.6%から減少しています。

「ミシガン・リコネクト」での 2 年制のコミュニティカレッジへの拠出に加え、4 年制大学に通う資格のある学生への年間最大 5,500 ドルの奨学金の制度なども実施しているにも関わらず、入学者数が依然として少ないという課題が浮き彫りになっています。

専門家からは、高等教育が経済にとって本当に価値があるのかを疑問視する風潮があるそうで、学生とその家族が「ミシガン・リコネクト」や奨学金について知り、効果があると信じるようになるまでには時間を要する、との見解もあります。

また、授業料をゼロにするには、連邦、州、地方のプログラムを組み合わせる必要があるため、州奨学金の対象となるには、学生は FAFSA(連邦学生援助無料申請書)に記入する必要があり、連邦政府に対し、移民ステータスなど様々な項目を記入することに抵抗を感じる学生もいるのではないかとの声もあります。

(3) 授業料無料の例外？

ホイットマー知事が主張する「ミシガン州の高校卒業生全員にコミュニティカレッジの授業料が無料になる」という主張は、実際と異なる、という意見も出ています。

ミシガン州の 28 のコミュニティカレッジ学区のいずれかに居住し、通学する学生と、部族カレッジに通う学生に授業料が無償化されていますが、ミシガン州の学生の約 20%は、コミュニティカレッジの学区に住んでいないため、依然として授業料を支払うか、割引しか受けられないと言われています。ミシガン州北部および農村部の多くの地域では、有権者がコミュニティカレッジ学区の設立や参加のために地方税を課さないことを選択しているそうです。

(4) コミュニティカレッジ偏重？

コミュニティカレッジの授業料を無償で提供しているため、私立大学への補助はもはや必要ない考える人も多いようですが、コミュニティカレッジに焦点をあてるのは限定的で、私立大学の授業料の補助金制度も必要、との意見もあります。私立大学は、看護、教育、工学、ビジネスといった分野で 4 年制の学位を提供しており、これらの分野はミシガン州の経済を牽引しています。

コミュニティカレッジの学生の約 80%は 4 年制大学への進学を希望しているものの、実際に 4 年制プログラムに編入する学生はわずか 47%。多くの学生が経済的なハードルに直面しており、高等教育において重要な役

割を果たしている私立大学への補助で、学位取得率と学生の教育向上につなげてはとの意見があります。

大人の高等教育へのアクセス拡大の意味

6月9日、5,000人を超えるミシガン・リコネクト卒業生を祝うバーチャル式典を開催され、ホイットマー州知事は、「ミシガン州民は皆、成功する公平な機会を得る権利があります。授業料無償のミシガン・リコネクト・プログラムのおかげで、25歳以上の誰もがミシガン州で自分の情熱を追求することができます。」とコメントされました。

家族の世話やフルタイムの仕事など、学校に通えない事情を抱え、大人になった後でも、大学に戻り、選択肢を広げ、人生を自分で創っていける、「ミシガン・リコネクト」のストーリーはどれも感動的です。子どもを育てるために自身の大学進学のを諦め、最終的に「ミシガン・リコネクト」を利用して復学を決意した親は数え切れないほどいるそうです。

課題はありますが、これまでに20万7000人以上のミシガン州民が授業料無料の高等教育や技能認定にアクセスし、より良い仕事、ずっとやりたかったことや夢を手に入れていることは間違いなく、今後の展開を注視したいと思います。